

研究・調査報告書

報告書番号	担当
66	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption, type of alcoholic beverage and risk of colorectal cancer at specific subsites. アルコール摂取、アルコール飲料のタイプと特異的サブサイトにおける結腸直腸ガンのリスク	
執筆者	
Bongaerts BW, van den Brandt PA, Goldbohm RA, de Goeij AF, Weijenberg MP.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Int J Cancer. 2008 Nov 15;123(10):2411-7.	
キーワード	
アルコール、アルコール飲料、結腸直腸ガン、コホート研究	
要旨	
<p>オランダにおける食事とガンに関するコホート研究において、アルコール摂取量、特異的なアルコール飲料摂取と解剖学的なサブサイトに対する結腸直腸ガン (CRC) リスクとの相関を調べた。ハザード比 (HR) と 95%信頼区間 (CI) はコックスの比例ハザードモデルで計算した。分析は 13.3 年のフォローアップで得られた 2323 名の CRC 患者で行った。非飲酒者と比べ、アルコール摂取量が 1 日当たり 30g 以上で CRC リスクと正の相関が見られた (HR:1.32、95% CI:1.06-1.65)。部位特異的な影響として、近接結腸から直腸まででガンリスクが上昇していた (近接結腸ガン HR:1.29、95%CI:0.85-1.96、遠位結腸ガン HR:1.41、95%CI:0.94-2.11、直腸 S 状部ガン HR:2.07、95%CI:1.03-4.18、直腸ガン HR:1.69、95%CI:1.08-2.64)。アルコール摂取量で調整後、特異的なアルコール飲料非摂取者と比較したところ、アルコール飲料のタイプと CRC リスクに相関はなかった。以上より、アルコール摂取と CRC リスクには正の相関が見られたものの、アルコール飲料中の成分ではなく、アルコール飲料中の摂取アルコール量がその原因と考えられた。</p>	